



ごあいさつ

医療連携福祉センター長 齋藤 豪



医療連携福祉センター長の齋藤です。

今年は、天皇陛下のご退位とご即位があり、元号がおよそ30年ぶりに「平成」から「令和」に替わりました。まだ何となく落ち着かない不思議な感覚をお持ちの方も多いのではないのでしょうか？ 思い起こせば「昭和」から「平成」に替わったときも、慣れ親しみを持てるまでに、少し時間が必要であったような記憶があります。

新年度になり、皆様ご自身やご家族の方には、職場や学校が変わるなど身の回りの環境が変化し、新鮮で緊張した毎日を過ごされている方もいると思います。生活環境の変化は、心や体にストレスをもたらす要因にもなりますが、自分自身を見つめ直すきっかけにもなり、自分自身を高めるチャンスにもなり得ます。社会においても、今年、元号が新しくなったことで、みなさん一人ひとりが平成の時代を振り返り日本の将来を考える契機とするならば、これからは、きっと、いま以上に平和で暮らしやすい日本の新しい「時代」が待っていることと思います。

医療・介護の分野についても、少子高齢化社会が急激に進展しているなかで時代の変化に合わせた柔軟な対応を求められています。地域において、患者本位の良質で適切な医療・介護を提供するためには、病院や介護施設が、一つのチームのように相互に連携して持てる力を組み合わせること。そして、それぞれが持つ役割を果たしていくことがたいへん重要になってくると思います。札幌医科大学附属病院が、高度先端医療をお届けし地域医療の中心的な役割を發揮していくために、みなさまとの連携をさらに強固にし、ともに新しい時代の医療を担っていきたくと考えておりますので、これからもご協力いただきますようお願い申し上げます。

○脊髄損傷に対する再生医療等製品「ステミラック注」による治療の開始について



札幌医科大学神経再生医療科 特任講師 岡 真一

札幌医科大学神経再生医療科および整形外科では、かねてよりニプロ社と共同研究を行っておりました自家骨髄間葉系幹細胞製剤につきまして、昨年12月に再生医療等製品「ステミラック注」として厚生労働省より条件および期限付薬事承認を得ることができました。対象は受傷後まもない脊髄損傷の患者で、適応は下記の通りとなっています。この「ステミラック注」は、患者自身の骨髄液に0.1%程度含まれる間葉系幹細胞を培養することによって製造する細胞製剤です。2、3週間かけておおよそ 1×10^8 個にまで培養し、その後安全性試験、品質試験を経て最終的な製品となります。投与は末梢静脈内に60分程度かけて1回点滴静注を行います。本年2月には薬価収載を経て、通常の保険診療による治療が可能となっています。

適応疾患：

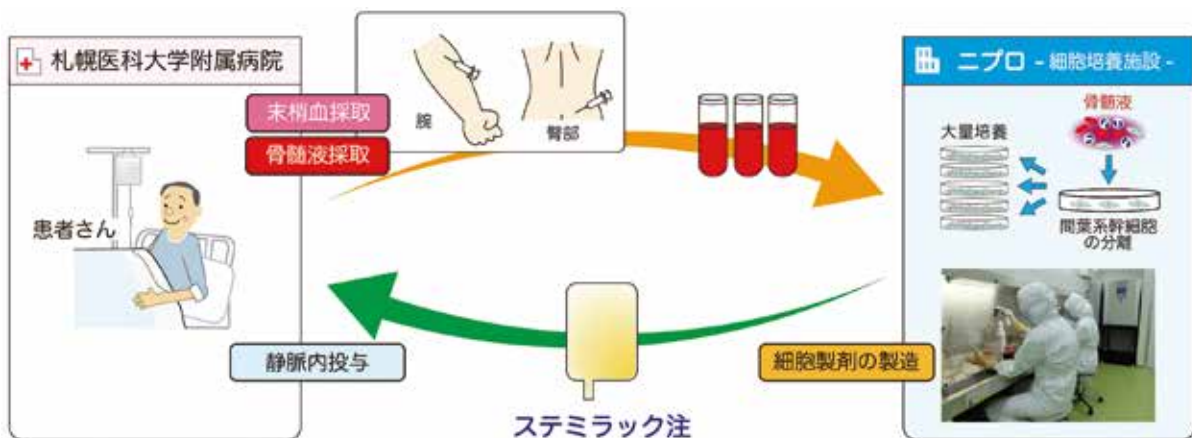
外傷性脊髄損傷で、ASIA 機能障害尺度がA、B又はCの方

適格基準：

- ①骨髄液の採取を、脊髄損傷受傷後31日以内を目安に実施できる方
 - ※培養の準備のため、実際には受傷後2週間以内を目安に転院が必要です。
- ②以下に該当しない方
 - ・本品の成分に対して過敏症の既往歴
 - ・悪性腫瘍の合併又は既往
 - ・アレルギーの素因
 - ・感染症（HBV、HCV、梅毒等）を合併
 - ・体重が低い患者（特に小児）や貧血
 - ・全身状態が極めて不良（例：内分泌代謝疾患、循環器疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、重度の多発性外傷、多臓器障害等）
 - ・重度の頭蓋内病変、主要血管の高度狭窄、解離性大動脈瘤、強い動脈硬化性変化、重度の石灰化等を認める
 - ・重度の脊髄・脊椎疾患（骨粗鬆症、脊髄腫瘍、脊髄血管奇形、脊髄空洞症等）を認める
 - ・血圧を収縮期140mmHg以下、拡張期90mmHg以下にコントロールすることができない
 - ・その他医師が不適切と判断した患者

この骨髄間葉系幹細胞製剤は、これまで有効な治療法がなかった脊髄損傷に対して、傷んだ組織に集積して①神経栄養因子による神経栄養・保護作用、②血管新生作用、③神経再生などが段階的に効果を発揮し、神経症状の回復が得られると考えられています。また同様にこれまでリハビリテーション以外に有効な治療法のない脳梗塞による運動麻痺などの後遺症に対しても、現在、医師主導治験（第3相治験）を実施しています。

【治療の流れ】



脊髄損傷を受傷し「ステミラック注」による治療を希望される場合は、原則入院中の医療機関からの紹介のみ受付を行っております。治療を希望される患者さんがおられましたら、札幌医科大学附属病院HP内の「ステミラック注」紹介ページより、確認事項のチェックを行い、専用の診療情報提供書に必要事項をご記入頂いた後、eメールもしくはFAXにて札幌医科大学神経再生医療科へ送付をお願いいたします。直ちに診療情報提供書を確認させていただき、返信をお送りいたします。

診療科紹介

○小児科紹介



小児科学講座 教授 川崎 幸彦

4月1日より札幌医科大学附属病院小児科長として赴任しました川崎幸彦です。3月まで福島県立医科大学小児科学教室で勤務しており、小児科学全般と小児腎臓病学、小児感染症学、膠原病、アレルギー学を専門としています。

どうぞよろしくお願いいたします。

現在の小児科医療には、新生児、循環器、感染症や小児救急などの急性疾患、神経・発達、血液・腫瘍、免疫・アレルギー、腎泌尿器、リウマチ、代謝内分泌、消化器やこどものこころなどの慢性疾患の診療、さらには予防接種や保健指導に至るまで広範囲で多岐に渡る専門分野が存在しており、今後当院におきましてもそれら専門分野の充実を考えています。

血液悪性腫瘍分野では、各種貧血、血小板減少症、免疫不全症等の血液疾患と白血病や各種固形腫瘍などの小児悪性腫瘍の治療を行い、難治例に対しては各種幹細胞移植術を施行しています。

腎・泌尿器疾患分野においては、先天性腎尿路奇形の診断や腎生検による各種慢性糸球体腎炎の診断と治療、特にIgA腎症や紫斑病性腎炎における多剤併用療法や扁桃摘出ステロイドパルス療法など、さらにネフローゼ症候群では免疫抑制剤、血漿交換やLDLアフェレーシスなどの体外浄化療法、リツキシマブなどの生物製剤などを用いた最新治療をご提供しています。また、難治性てんかんや急性脳炎・脳症、髄膜炎など中枢神経感染症患児に対する集約的治療や各種循環器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝性疾患、膠原病やアレルギー疾患に対する最先端の診断と治療、特に食物アレルギー疾患患児に対しては食物経口負荷試験や経口免疫療法などを行います。

さらに、道内の小児医療施設との連携を強化し、派遣病院から重症・難治・希少疾患をもつ患者さんを受け入れ、高度かつ先進的な医療を提供できるような体制を構築して参りたいと思います。

このように安全で質の高い小児医療を皆様にご提供することで、北海道の小児地域医療に貢献するべく日々努力を積み重ねる所存ですので、これからもご協力いただきますようお願い申し上げます。

インフォメーション

○新患の外来受診予約について

医療連携係では、医療機関からのFAXでの申し込みにより、新患外来予約の事務処理を行っておりますが、新年度の留意点と外来予約体制について、お知らせいたします。

1. 免疫・リウマチ内科・・・申し込み時に血液データの添付（膠原病に関する項目、炎症反応、IgG4等が望ましい）をお願いします。また、予約の返事には時間を要しますので、患者さんがお待ちの場合は帰っていただき、後日、予約日時を紹介元医療機関へお知らせいたします。なお、大変混んでいる診療科のため、予約日の設定が1カ月以上あともなることもございます。
2. 肺高血圧症専門外来・・・紹介患者さんの増加に伴い、平成30年7月から予約を増やしております。新来は第2週・第4週の木曜日 ①13:30、②14:00に一人30分の時間となっております。
3. 総合診療科・・・診療体制が整うまでの間、4月から当面新患外来の受付を中断しております。今後の予約再開に関しては、現時点では未定となっており、再開に関する情報は、附属病院のホームページでご確認下さい。また、総合診療等に関する相談診療については、原則として「内科新来」が対応することとなっておりますことを申し添えます。



< 医療連携係のスタッフです。>

なお、お問い合わせの多い入院（転院）の依頼については、当センターでは承っておりません、主治医から各該当診療科の病棟医長に直接電話等で相談していただきますようお願いしております。また、当院の入院予約になっている患者さんの入院日時の連絡は、決まり次第、医師または看護師長から連絡をしておりますのでお待ちください。

医療連携は、少ないスタッフで実務にあたっております。また、FAXが混み合っており迷惑をかけることもあると思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

新患外来予約の申し込み方法は下記のとおりです。改めてご確認ください。

1. 新患外来予約のお問い合わせ、申し込み先

月曜日から金曜日（平日）まで

電話番号：011-688-9514（新患外来予約の専用ダイヤル）

F A X：011-621-2233



2. 予約の申し込み方法

- ・新患外来予約専用の申込用紙「新患外来予約申込書」に記入の上、FAXでお申し込みください。専用の書式は当院のホームページからダウンロードできます。
※お電話いただければ様式をお送りすることも可能です。

新患外来受診予約のウェブサイト

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000002zmz.html>

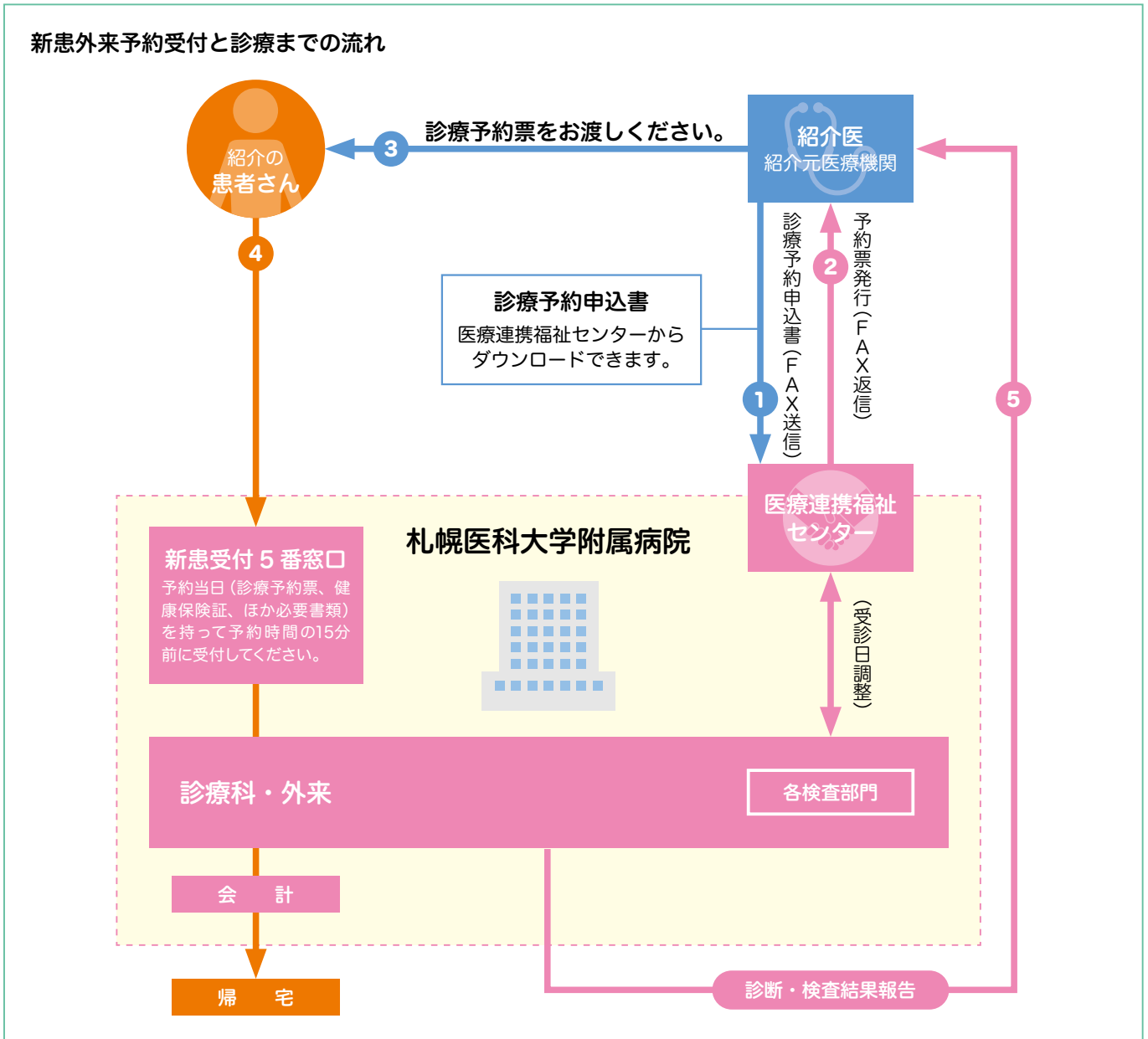
- ・受付時間は、「9:00～12:00」と「13:00～16:00」です。
業務をスムーズに進めるためにも、ご協力をお願いします。
- ・患者さんご本人からの予約申込みは受け付けておりません。（遺伝子診療科、神経精神科を除く）
- ・患者さんが貴院でお待ちの場合は、15分以内を目途にFAXで予約票をお送りします。
ただし、医師指定の場合や受診希望の診療科によりましては、診療スケジュールを医師や外来看護師に確認した後のお返事となります。その際は、お返事にお時間、お日にちがかかる場合がありますのであらかじめご了承ください。
- ・お送りしました予約票は、貴院から患者さんへお渡しください。
- ・当日の新患外来受診の予約や検査のみの予約はできませんのでご注意ください。
- ・申込みをいただいても、疾病の内容などにより、当院では診療をお引き受けできない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

3. 受診受付

- ・患者さんは、予約票、保険証、診療情報提供書などをお持ちの上、予約時間の15分前までに新患受付5番窓口で受付を済ませてから、外来でお待ちください。



新患外来予約受付と診療までの流れ



(注意事項)

1. 通常診療

当院は特定機能病院であるため、初診の患者さんで他の病院等からの紹介状をお持ちではない場合は、初診料とは別に保険適用外の**初診時一部負担金(5,400円)**をご負担いただいております。臨床遺伝外来、神経精神科以外は予約なしでの受診もできますが、待ち時間軽減のためにも医療機関からの予約申し込みをおすすめします。

2. 再来診療

同じ診療科で1年以内に受診歴がある場合は、「新患予約」の扱いになりませんので、「**14:00～15:30**」の間に**各診療科外来**にお問い合わせください。

※代表番号011-611-2111からオペレーターに外来名をお伝えください。

3. 神経精神科の予約

- ・**新患受診**：月曜日から金曜日(祝祭日を除く)の14:00から15:30までの間に、電話で予約してください。(電話番号 011-611-2111 内線35330(神経精神科外来))
- ・**もの忘れ外来**：月曜日から金曜日(祝祭日を除く)の14:00から15:30までの間に、電話で予約してください。(電話番号 011-611-2111 内線35330(神経精神科外来))
なお、かかりつけの病院またはクリニックからの紹介状が必要となります。
- ・**GIDクリニック(性同一性障害専門外来)**：初めての受診は予約が必要です。予約の方法は当院ホームページ(トップページのお知らせ欄)で確認してください。

○入院（転院）の依頼について

入院のご依頼は、医療連携福祉センターでは承っておりません。主治医から各該当診療科の病棟医長に電話等で直接相談していただきますようお願いいたします。

また、入院が決まった後の日程等の調整も各病棟で行っていますので、不明な点があれば各病棟の看護師にお問い合わせください。なお、入院に関する診療情報提供書のFAX送信については取り次ぎますので、医療連携福祉センターのFAXに送信していただく結構です。

○セカンドオピニオン外来について

当院では、セカンドオピニオン（第二の意見）を求める患者さんやそのご家族に対して、現在、診療を受けている医療機関からの紹介状と必要な資料に基づいて、当院の医師が、参考となる意見や判断を提供する「セカンドオピニオン外来」を開設しております。

●ご用意いただくもの

- ・主治医からの紹介状（お受けできるか判断するために、申込時に必要となります）
- ・画像、検査資料
- ・相談同意書（ご家族だけで面談の場合）等

●料金

1回 60分以内 21,600円（消費税込）

●申込方法

- ・当院申込書にご記入のうえ、FAXでお申込ください。（申込書は当院ホームページからもダウンロードできます。）
- ・医療機関からお申し込みの場合は、紹介状も一緒にFAXしてください。
- ・申込書を提出された方へご連絡後、日程を決定し、各診療科外来にてご相談をお受けします。

セカンドオピニオン外来のウェブサイト

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/guide/mumhv60000002omq.html>

【担当】医療連携係 011-611-2111 内線51230

編集後記

4月1日に新たな元号が「令和」に決まりました。世間はすっかり令和ブーム。それと共に何につけても「平成最後の…」の枕詞が飛び交い、何かに追われているわけでもないのに一抹の不安に駆られる日々でした。

そして、私たち医療連携福祉センターの中でも「平成最後の異動」がありました。私は退院支援係から医療連携係への異動。同じセンター内とは言えども新人で、医療機関の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、都度ご指導いただければと思います。

話は戻りますが、「令和」とは「明日への希望と共に、日本人1人ひとりが大きな花を咲かせる」という願いが込められているのだそうです。当センターでもそれぞれが力を発揮できるよう努力して参りますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。

（医療連携係 大谷 知寿）

札幌医科大学附属病院 医療連携福祉センター

医療連携係（内線51210、51230、31320） 退院支援係（内線31930、51260、51270、51250）
相談係（内線31840、31890、31900、31910、31920、31960）

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
TEL：011-611-2111（代表） FAX：011-621-2233